回復期リハビリテーション病棟　実績報告

２０２６年１０月１日現在

１．退棟患者数（2026 年 7 月～9 月）

回復期リハビリテーション病棟からの退棟患者	48　名
②　①　のうち回復期リハビリテーションを要する状態の患者数	33　名

③	②　の状態の患者の内訳	患者数	割合
1	脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、くも膜下出血のシャント術後、脳腫瘍、脳炎、急性脳症、脊髄炎、多発性神経炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症後もしくは手術後の状態又は義肢装着訓練を要する状態	16 名	48.48%
2	大腿骨、脊椎、股関節もしくは膝関節の骨折又は 2 肢以上の多発骨折の発症後または手術後の状態	14 名	42.42%
3	外科手術または肺炎等の治療時の安静により廃用症候群を有しており、手術後または発症後の状態	2 名	6.06%
4	大腿骨、骨盤、脊椎、股関節又は膝関節の神経、筋又は靱帯損傷後の状態	0 名	5.40%
5	股関節又は膝関節の置換手術後の状態	1 名	3.03%

２．実績指数（前月までの 6 か月間）　各年度 4 月、7 月、１０月、1 月に算出

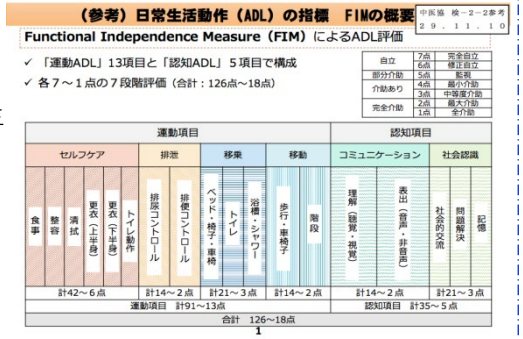
④	実績指数（⑥／⑦）	40.78　点
⑤	実績指数の計算対象とした患者数	76　名
⑥	⑤の患者の退棟時の FIM の得点から入棟時の FIM の得点を控除した総和	2,256　点
⑦	⑤の各患者の入棟から退棟までの日数を、患者の入棟時の状態に応じた回復期リハビリテーション病棟入院料の算定日数上限で除した総和	55.31

$$\text{実績指数} = \frac{\text{⑥　FIM 運動項目の得点　　退棟時　—　入棟時　（対象患者の合計）}}{\text{⑦　在棟日数　÷　入棟時の状態での算定日数上限（対象患者の合計）}}$$

FIM とは・・・

機能的自立度評価法（Functional Independence Measure、略称 **FIM**）のこと。1990 年アメリカ合衆国で Granger らによって開発され、日常生活動作（ADL）が自力でどの程度可能かを評価する方法である

食事、排泄、移動などの運動項目（１３項目）と、コミュニケーションなどの認知項目（５項目）から構成され、１～７点の点数で採点、合計し、評価します。



代々木病院